

2023年3月期第一四半期 決算報告会

 **丸一鋼管株式会社**

常務執行役員 河村 康生

2022年8月

- I . 2023年3月期 第1四半期 決算概要
- II . 主要連結子会社の状況
- III . 足元の事業環境認識
- IV . 2023年3月期 業績見通し

I . 2023年3月期 第1四半期 決算概要

＜ポイント＞

- 販売数量面では、日本は微増、北米の伸び悩み、アジアSUNSCO社の落込みから、全体では新規連結2社(MNT社・MPST社)を加えても前年同期比微減。
- 売上高は、各地域セグメントでの製品値上げ効果から、大幅な増収を確保。
- 営業利益は、北米は前年同期に製品価格値上げ先行によるスプレッドの改善があったことから減益なるも、日本・アジアの増益から全体では増益を確保。
- 5月に公表した上期業績予想の第1Qの進捗値を若干上回る水準で推移。

【単位：百万円】

	2022年3月期実績					2023年3月期					前期比	前期比(%)
	1Q	2Q	上期	下期	通期	1Q 実績	2Q	上期 計画	下期 計画	通期 計画	1Q	1Q
売上高	45,612	53,939	99,551	124,667	224,218	65,541	-	136,000	143,200	279,200	19,928	+43.7
営業利益	7,735	9,564	17,299	18,977	36,276	8,789	-	16,000	16,100	32,100	1,053	+13.6
経常利益	8,651	9,986	18,637	19,821	38,458	9,777	-	18,200	16,700	34,900	1,125	+13.0
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,089	7,364	13,453	14,307	27,760	6,453	-	11,800	10,800	22,600	364	+6.0

【売上高】	2022年3月期実績 (百万円)					2023年3月期実績 (百万円)					前期比(%)
	1Q	2Q	上期	下期	通期	1Q	2Q	上期	下期	通期	1Q
日本	28,738	31,432	60,170	75,936	136,106	38,529	-	78,526	87,240	165,766	+34.1
北米	9,138	12,386	21,524	27,176	48,699	16,032	-	33,757	28,092	61,849	+75.4
アジア	7,735	10,122	17,857	21,555	39,412	10,978	-	23,717	27,868	51,585	+41.9
調整額	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	45,612	53,939	99,551	124,667	224,218	65,541	-	136,000	143,200	279,200	+43.7

【営業利益】	2022年3月期実績 (百万円)					2023年3月期実績 (百万円)					前期比(%)
	1Q	2Q	上期	下期	通期	1Q	2Q	上期	下期	通期	1Q
日本	4,653	4,902	9,554	11,946	21,500	6,971	-	11,266	13,440	24,706	+49.8
北米	2,244	3,344	5,588	5,640	11,228	778	-	2,844	520	3,364	▲65.3
アジア	775	1,250	2,025	1,221	3,246	935	-	1,820	1,959	3,779	+20.7
調整額	62	69	130	170	300	104	-	70	181	251	+66.5
合計	7,735	9,564	17,299	18,977	36,276	8,789	-	16,000	16,100	32,100	+13.6

2023年3月期第一四半期決算 一 個別各社の実績

O1×100

【単位：億円】

	売上高					営業利益					経常利益					親会社株主に帰属する当期純利益				
	22/3期				23/3期	22/3期				23/3期	22/3期				23/3期	22/3期				23/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
丸一鋼管	226.8	249.0	304.7	308.3	312.1	41.3	34.9	49.0	43.8	54.6	57.5	41.2	55.7	56.7	73.6	40.9	29.8	39.8	42.8	52.8
丸一ステンレス	48.8	61.1	67.6	67.0	61.1	3.4	8.9	12.2	6.7	11.2	3.4	9.0	12.3	6.6	11.3	2.0	6.1	8.4	5.0	7.3
アルファメタル	9.6	9.3	7.8	10.4	9.3	▲0.2	▲0.2	▲0.6	▲0.2	▲0.1	0.0	▲0.0	▲0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	▲0.2	▲2.9	0.0
その他国内子会社	129.3	139.4	166.8	165.1	179.3	1.3	5.2	7.4	1.9	3.7	4.4	5.5	7.7	2.2	7.9	3.6	3.3	5.1	1.6	5.6
MKK USA INC.	43.3	63.1	64.8	58.1	75.4	11.1	19.6	19.4	11.1	7.1	11.0	19.9	19.4	11.1	6.9	9.9	17.6	14.4	16.1	5.8
MNT	-	-	-	5.1	13.9	-	-	-	▲0.1	▲3.3	-	-	-	▲0.1	▲3.3	-	-	-	▲0.1	▲3.3
MAC	24.3	34.6	40.9	37.7	39.0	5.4	8.2	8.1	6.2	2.0	5.4	8.6	8.1	6.2	2.0	3.9	6.3	5.8	4.4	1.5
MOST	17.0	20.2	24.7	24.0	23.4	4.9	4.8	4.8	2.4	▲0.2	4.9	4.8	4.8	2.3	▲0.2	4.9	4.8	4.8	2.3	▲0.2
MMX	7.2	6.7	8.7	9.1	9.5	1.5	1.3	2.3	3.0	2.7	1.5	1.5	2.2	1.4	2.8	1.1	1.2	1.9	0.1	2.3
SUNSCO(含Hanoi)	65.7	84.7	79.6	99.0	85.6	6.4	10.8	6.6	2.2	7.0	7.8	11.8	6.2	2.3	9.7	7.6	11.8	6.1	2.3	9.5
KUMA	13.9	18.8	19.5	21.8	25.4	1.3	1.7	1.2	2.1	2.5	1.3	2.0	1.2	2.1	2.1	1.1	1.4	0.8	1.5	1.6
MPST	-	-	-	-	1.5	-	-	-	-	▲0.1	-	-	-	-	▲0.2	-	-	-	-	▲0.2
持分法適用関連会社	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.8	0.9	1.5	0.7	1.2	-	-	-	-	-
のれん代	-	-	-	-	-	0	0	▲7.9	▲2.6	▲0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
連結調整	▲129.8	▲147.4	▲173.1	▲170.8	▲180.1	1.1	0.4	▲1.0	1.1	0.8	▲11.4	▲5.4	▲2.1	▲10.0	▲16.0	▲14.0	▲8.7	▲3.7	▲13.2	▲18.2
合計	456.1	539.4	612.0	634.7	655.4	77.3	95.6	109.6	80.2	87.9	86.5	99.9	116.7	81.5	97.8	60.9	73.6	83.2	59.8	64.5

営業利益の増減要因（22年3月期1Q実績→23年3月期1Q実績）

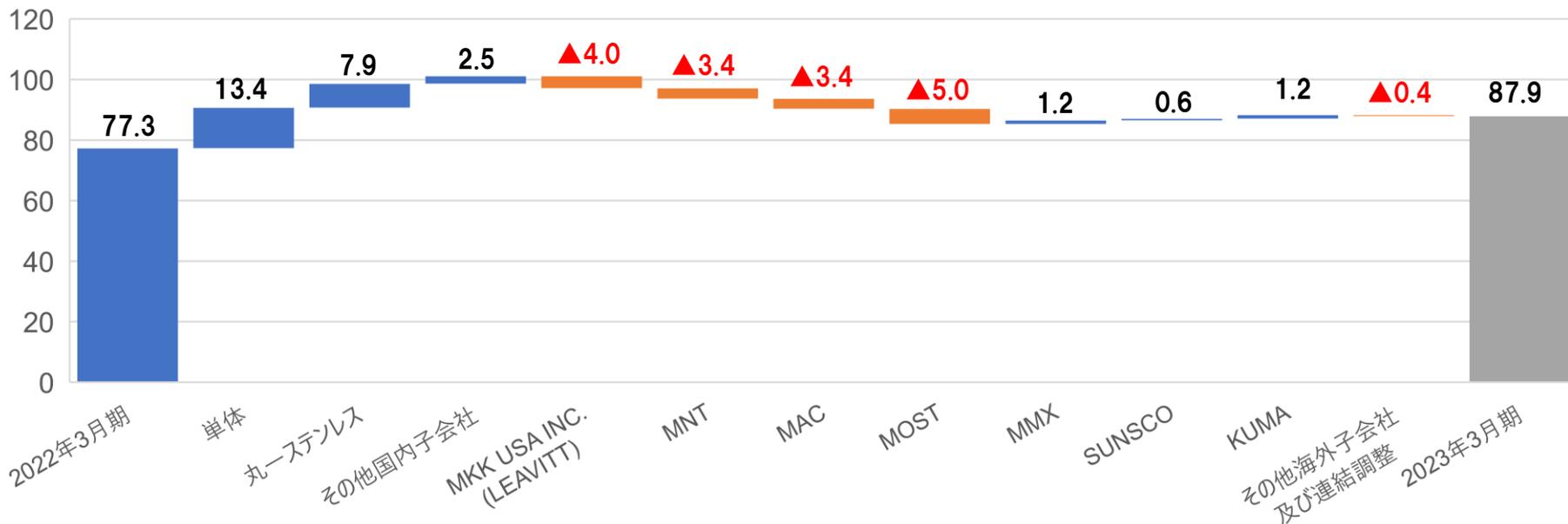
01 × 100

<ポイント>

- 単体は昨年値上げが遅れていたユーザー向け追加値上げ及び、農業用GHパイプ、電線管等の値上げを行う。同時に店売りに関して、仕入コイルの転嫁値上げを行った。
- 丸ステンレスは、国内向け一般管及び輸出半導体向けBA管が好調。販売価格改善及びコストダウンもあって増益。
- 米国の前期は製品価格上昇局面でスプレッドが拡大した時期。今期は下落局面で減益。
- MMX、KUMAは部品不足などの影響はあるが、前期よりは状況が改善して増益。

■ 増益 ■ 減益 ■ 2023年3月期

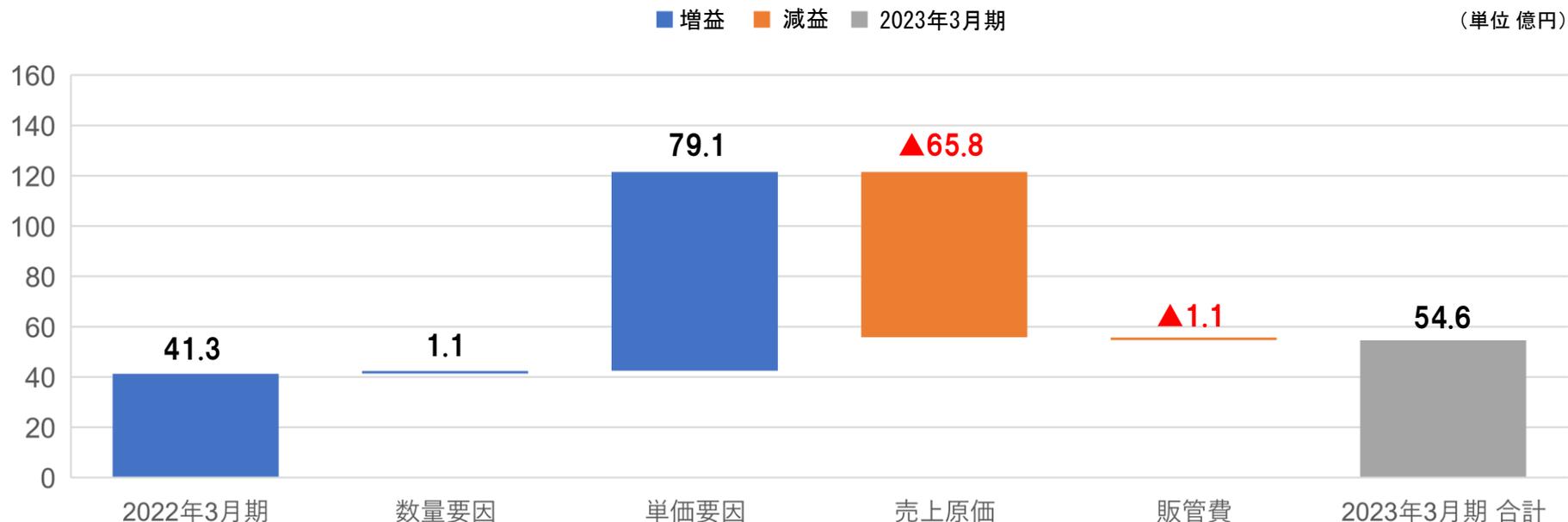
(単位 億円)



単体営業利益の増減要因（22年3月期1Q実績→23年3月期1Q実績）〇1×1〇

<ポイント>

- 中小建築案件の需要低迷、自動車生産の回復遅れから、鋼材全般にタイト感に欠け、市況は盛り上がりを欠く。
- 総販売数量は188千トンで、前年同期比+2.0%と微増。
- 材料コイル調達価格の上昇を始め、亜鉛等の補助材料や電力料金など売上原価がコストアップ。
- 引き続き製品価格の値上げに取り組み、総販売単価は前年同期比+34.9%アップ。
- 結果、営業利益は、54.6億円と前年同期比+13.3億円(+32.3%)の増益。



単体及び海外の出荷数量の推移

<ポイント>

- 丸一鋼管の構造用鋼管は、前年同期比では6%の増加ながら、引き続き中小建築案件の需要は低迷。前期は6月からコイル入手タイト化で減産。
- 丸一鋼管の機械構造用は、中国のロックダウンの影響から国内の自動車生産が回復せず、前年比▲8%のダウン。
- 米国は市況の下落局面で当用買いとなり、MNT以外の3社は前年比マイナス。
- MMXは日系自動車メーカーが中国からの部品及び半導体不足の影響で減産。
- SUNSCOはホーチミンはホットコイル下落に伴い製品販売減少。Hanoiの販売は前年と同レベル。
- KUMAはコロナ前の水準に戻り増加。

【出荷数量】(千トン)	四半期ベース					半期ベース		通期ベース
	22/3期				23/3期	22/3期		22/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	上期	下期	
丸一鋼管 構造用	108.4	105.0	117.6	104.0	115.0	213.4	221.6	435.0
丸一鋼管 機械構造用	36.0	33.9	35.4	36.0	32.9	69.9	71.4	141.3
丸一鋼管 その他	40.3	37.1	40.6	44.2	40.5	77.4	84.8	162.2
米国(4社)	57.6	60.4	54.6	45.3	60.6	118.0	99.9	217.9
MMX	3.5	2.9	3.3	2.9	2.8	6.4	6.2	12.6
SUNSCO	64.8	69.6	53.0	63.2	54.6	134.4	116.2	250.6
KUMA	5.9	7.6	7.1	7.8	7.6	13.5	14.9	28.4
その他	3.4	3.8	4.1	3.9	4.2	7.2	8.0	15.2
合計	319.9	320.3	315.7	307.3	318.2	640.2	623.0	1,263.2

Ⅱ. 足元の事業環境認識

国内需要	鋼板類	<ul style="list-style-type: none"> 中国のロックダウン解除により部品供給は徐々に回復するが、半導体不足は続いており、国内自動車生産台数の本格的な増加には時間がかかるを見る。 国内在庫高レベルなため、国内高炉は減産基調。一方コスト高を理由にホットコイルのトン3万円の値上げを主張。海外は需要不足で、米国・アジアは大幅下落。 建築・インフラの国内需要は弱い。 ウクライナ侵攻直後に比べて原材料コストは下落している。
	鋼管類	<ul style="list-style-type: none"> 建設・自動車は需要が弱い。 国内高炉の値上げ圧力は強く、製品値上げに注力中。
海外の状況	中国	<ul style="list-style-type: none"> 主要都市のロックダウン解除から自動車の生産活動は徐々に回復しているが、ゼロコロナ政策継続による再ロックダウンの懸念あり。 国内のHRC需要は弱く輸出増及び値下げが顕著。
	ベトナム/米国	<ul style="list-style-type: none"> ベトナムを含む東南アジアは、中国やインドから安い鋼材が入り市況が大混乱しており、受注が大幅減となっている。 米国のCRUは昨年第4四半期以来下落していたが、ウクライナ情勢で急反発しその後また下落中。ただ、鋼管価格はCRUより小幅な変動幅で推移している為、スプレッドは縮小しつつあるが、採算はある程度維持している。但し受注残は減少している。 ベトナム、米国共に急速なインフレの影響が懸念材料。
主要需要分野の活動状況	建設	<ul style="list-style-type: none"> 当社製品の分野である中小建築物は弱い状態が続く。
	自動車	<ul style="list-style-type: none"> 半導体や部品の供給不足解消を待つが、前半は生産台数の回復は難しいとみている。

Ⅲ. 主要連結子会社の状況

丸一鋼板株式会社

- 販売数量は前年比、計画比共に2%程度未達ながら、売上は40%増。利益面は前年比大幅増。計画対比も40%程度上回った。
- 切断加工設備のある12営業所でカットコラム拡販に注力。
- 倉庫の在庫保有能力を活かし、各地で客先の当用買いに対応し拡販を目指す。

業績の推移

(単位：百万円)

	売上高	営業利益
2022年2月期実績	37,804	745
同1Q実績	8,229	3
同2Q実績	8,623	180
同3Q実績	10,665	437
同4Q実績	10,287	125
2023年2月期計画	47,504	433
同1Q実績	11,505	211

丸ーステンレス鋼管株式会社

- 一般管は、国内問屋販売、バイオマス・ゴミ焼却ボイラー向けが堅調。輸出もLNG船向けを中心に堅調。
- BA管は自動車減産によるマイナスを半導体向けでカバーし増量。
- 営業利益は、販売価格改善及びコストダウンで予想対比増益を確保。
- 国内BA管生産体制を、22年10月以降20万本/月、23年春以降25万本/月体制に増強する。
- 米国でのBA管製造を具体化中。アラムコ向けコイル管の継続受注に成功。

業績の推移

(単位：百万円)

	売上高	営業利益
2022年3月期実績	24,447	3,118
同1Q実績	4,878	335
同2Q実績	6,111	890
同3Q実績	6,759	1,225
同4Q実績	6,699	667
2023年3月期計画	27,270	3,480
同1Q実績	6,108	1,124

LEAVIT社・MNT社 (米国)

- 1、2月は前年並みの販売。ウクライナ侵攻による投機的な動きとなり、3月後半には相場が急上昇。受注も高レベルを維持。
- 足元はCRUが急降下。製品受注残減少中。1Qからの受注残があり、鋼管価格はコイル相場ほど落ちていない。
- 市場下げ局面が予想される中、下期はより採算性の高い商品や高付加価値需要家向け等に注力し数量維持を目指す一方、原材料購入量を絞り、在庫圧縮を図る。

MAC社 (米国)

- CRUは21/9月末に\$2,158/MTとなった後、22/3月初には\$1,030/MTまで下がる荒々しい展開に。ウクライナ侵攻の影響で3月下旬に再び反転し、4月中旬に\$1,644/MT。現在は\$987/MT。
- 需要は堅調。顧客の在庫レベルも適性を維持。製品は年明けから相場が弱含みであったが、3月後半で持ち直したこともあり、第1QはMACが予算を上回る。MOSTは1Qは未達なるも2Qには回復の見込み。
- 年後半の市況は不確定要素が多いため、評価損リスクを念頭に厳しく在庫レベルを管理する。
- MOSTの対カナダ比率は20%程度(ピーク60%弱)まで落とし、ローカル顧客中心の販売に転換。MACは上位顧客の比率が50%程度となり、更に顧客ポートフォリオ改善を図っていく。

MOST社 (米国)

業績の推移

(単位：百万US\$)

	売上高	営業利益
2021年12月期実績	199	56
同1Q実績	39	10
同2Q実績	55	18
同3Q実績	56	18
同4Q実績	53	10
2022年12月期計画	255	11
同1Q実績	73	3

業績の推移

(単位：百万US\$)

	売上高	営業利益
2021年12月期実績	125	25
同1Q実績	23	5
同2Q実績	32	8
同3Q実績	37	7
同4Q実績	33	5
2022年12月期計画	140	7
同1Q実績	33	2

業績の推移

(単位：百万US\$)

	売上高	営業利益
2021年12月期実績	76	15
同1Q実績	15	4
同2Q実績	18	5
同3Q実績	22	4
同4Q実績	21	2
2022年12月期計画	89	5
同1Q実績	20	▲0

MMX社 (メキシコ)

- 半導体及び部品調達不足の影響で、各OEM生産量は当初予定よりも20~30%ダウン。
- 中国ロックダウンの影響もあり、各OEMが下期(7~12月)で目標としていた生産計画の回復も不確定要素が多い。当初予算の20~30%減は避けられない状況。
- 在庫は適正レベルへ調整の目途が立つ。ドイツ製高性能切断機2号機も導入済。OEMの生産正常化に備える。

SUNSCO社 (ベトナム)

- 第1Qは弱含みの相場が、ウクライナ侵攻による影響で東南アジア相場が4月に急上昇。数量は落ち込んだが第1Qの利益は計画比超過。
- 上海ロックダウンの影響が3月から始り、6月末で解除されたが中国国内需要回復が遅く、市況は下落中。よって中国ミルは輸出に積極的で、ベトナムにも安値オファー中。インドミルも同様に輸出攻勢。インフレによりベトナム国内の工事がストップするなど建材需要が低迷中。
- 5~6月で価格・数量大幅減。在庫急増。減損不可避。
- 国内販売比率50%を目指し、家電向けに営業展開中。
- 持続的成長や差別化のための投資、人材育成に注力。

KUMA社 (インド)

- インドの4輪生産台数は、5月にはほぼコロナ前に戻り、第1Q(4~6月)は販売数量、利益共に計画を上回った。
- 足元の原油や素材の高騰、ルピー安及びインフレ抑制のための利上げによりローン金利の上昇など、4輪の販売環境が悪化。
- OEMのコストダウン要請で、材料コイルの国産品の支給へのシフトが進む可能性あり。採算悪化懸念。
- 輸入調達先の変更でコスト削減に注力。

業績の推移

(単位：百万US\$)

	売上高	営業利益
2021年12月期実績	29	6
同1Q実績	7	2
同2Q実績	6	1
同3Q実績	8	2
同4Q実績	8	1
2022年12月期計画	31	5
同1Q実績	8	2

業績の推移

(単位：百万US\$)

	売上高	営業利益
2021年12月期実績	299	14
同1Q実績	62	4
同2Q実績	78	8
同3Q実績	72	3
同4Q実績	87	▲1
2022年12月期計画	361	15
同1Q実績	74	4

業績の推移

(単位：百万US\$)

	売上高	営業利益
2022年3月期実績	62	6
同1Q実績	13	1
同2Q実績	17	2
同3Q実績	17	1
同4Q実績	15	2
2023年3月期計画	66	6
同1Q実績	20	2

IV. 2023年3月期 業績見通し

<諸前提>

- 販売数量は、日本の丸一単体は前年度比+2.8%の微増、北米は新規連結MNTを含め+12.9%・アジアも新規連結MPSTを含め+7.3%とし、連結全社では+5.7%（新規連結除外では+3.7%）。
- コイル価格はウクライナ侵攻の影響による世界的なコスト上昇基調から、足元日本はトン3万円の値上げ圧力大。一方北米・アジア各地とも大幅値下がりでも市況混乱は避けられず。当社国内は値上がり分の製品価格への転嫁を図る。
- 日本は丸一ステンレス鋼管も含めて営業増益、北米・アジアは在庫の圧縮に努め、評価損ミニマイズにより採算重視の方針。北米は前年度大幅増益からの落ち込みが避けられず減益。アジア、特にベトナムSUNSCO社は、中国市況混乱の影響を避けられず大幅減益。
- 全社では、年間売上高2,792億円（前年度比+24.5%）・営業利益321億円（同▲11.5%）・経常利益349億円（同▲9.3%）と5月発表の見通しを維持し、中期経営計画目標の営業利益260億円は2年連続の達成を見通す。

	2022年3月期実績 (百万円)			2023年3月期計画 (百万円)			対前年同期比 (%)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	99,551	124,667	224,219	136,000	143,200	279,200	36.6	14.9	24.5
営業利益	17,299	18,978	36,277	16,000	16,100	32,100	▲7.5	▲15.2	▲11.5
経常利益	18,638	19,821	38,459	18,200	16,700	34,900	▲2.4	▲15.7	▲9.3
親会社株主に帰属する当期純利益	13,454	14,307	27,761	11,800	10,800	22,600	▲12.3	▲24.5	▲18.6



事業の深化と進化による収益性の向上

- デジタルトランスフォーメーション（DX）の導入
- オープンイノベーションの推進
- 社会課題解決を意識したグローバル展開の加速

新領域への果敢な挑戦

イノベーションを生む組織への変革

注意事項

本資料の計画・見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものです。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの計画・見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。